



今月のトピック

田島町に交流拠点施設がオープン

この度、平成9年度から農業生産基盤の整備と生活環境基盤の整備を総合的・一体的に進めている田島町荒海地区に県営中山間地域総合整備事業による活性化施設が完成し、7月18日に、渡部恒三衆議院副議長をはじめ知事代理の菅野純紘農林水産部長、室井英彦田島町長外郡内の各町村長等120名の出席のもと、新しく開設された会津鉄道(株)「会津山村道場駅」との合同竣功・祝賀式が行われました。

この活性化施設は「森の交流館」と命名され、7月20日より一般にオープンし、さっそく多くの方に利用されています。また本事業では、平成10～13年度にこの活性化施設と隣接して農村公園（ふれあい公園）・交流広場・しゃくなげ園等を、総工費6億円余を投じて整備致しました。

また併せて、田島町が事業主体の山村振興等農林漁業特別対策事業



おくらいり
”御蔵入の里”会津山村道場「森の交流館」



竣功・祝賀式

(総工費4億円余)により、宿泊施設(山荘ななみね、4棟約100名収容)・うさぎの森オートキャンプ場(28区画)も一体的に整備され、これら一連の施設は田島町の管理のもとに運営されることになりました。

この地域は古くから「御蔵入の里」と称されており、秀峰七ヶ岳の麓の雄大な自然に囲まれた現代と歴史が交差する貴重な観光スポットとして、また都市住民との交流拠点として「御蔵入の里」に大きな期待が寄せられています。

(農業振興部、農村整備部)

「森と水の学習会・イワナの放流」開催される

「森林・川・海の循環の理念」の中で森林の果たす役割について子供たちに理解してもらうことを目的として、「森と水の学習会、イワナの放流」が7月16日に田島町金井沢地区の帯沢で開催されました。これは、毎年南会津森林土木協会と建設業協会田島支部技術研究会の主催で行われているもので、今年は、夏休みを前にした町立桧沢小学校の3・4年生25名を対象として実施されました。

大平森林林業部長から「森林と魚のはなし」と題し、山から海までの中で森林は重要な役割を果たしていること、木材や紙の資源として大切であること等の説明が行われ、また、治山係長から「森の働き」について周辺に生育している木々の種類や根の張り方の話を行い、生徒達が実際に低木を引き抜き土砂を抑える力の大きさを体験しました。この後生徒達の手により、森に育まれたきれいな水に棲息するイワナの稚魚3000匹を、“元気に大きくなーれ”と一斉に放流しました。

この放流事業は、主催者と各河川漁協の協議を経て平成3年度から各町村毎の溪流に放流を続けてきており、川魚の保続の一助となっています。生徒達からは森の働きや水の大切さについて様々な質問が出され、「学習会」は大きな成果を得ることが出来ました。

翌17日には、同じく伊南村青柳地区の久川で、山口支部青年部主催による村立伊南小学校の生徒20数名を対象に「学習会」を開催し、イワナの放流が行われました。



体験学習に興味津々

(森林林業部)

「田島ダム・サマーフェスティバル2001」

7月15日、森と湖に親しむ旬間実行委員会主催の「田島ダム・サマーフェスティバル2001」が、田島ダムとその周辺公園において行われました。当日は大変暑い一日となりましたが、500名程の親子連れでにぎわい、魚のつかみ取り大会等に子供たちの歓声があがっていました。

当事務所では「森の手作りおもちゃコーナー」を設け、小鳥の形にくり抜いた木型にペインティングしてブローチを作ったり、木の小枝を利用してカブトムシなどの昆虫を作ったりと、木材を利用したおもちゃ作りを楽しんでもらいました。いろいろと工夫をこらした作品ができあがり、子供たちも得意顔になっていました。
(森林林業部)



手作りは楽しい!



“本物”の良さを実感

「南会津木材フェア」開催

南会津産の木材を広く一般の方々にPRするため、田島町において7月21日から29日までの9日間にわたり「南会津木材フェア」(平成13年度地域づくりサポート事業)が開催されました。

主催者の「南会津木材の利用促進を図る会」は、主に南会津地方の7つの木材業者が集まった会で、フェアでは広葉樹のテーブルから和太鼓、民家古材に至るまで、バラエティに富んだ商品が出展されました。

フェア開催期間中は一般、業界を含めて多くの方々が来場し、森の働きと木の良さをPRした展示コーナーや和太鼓製作体験、さらに地場産ソバの試食会など、南会津の豊かな資源と魅力を味わっていました。

(森林林業部)

この人を知りたい

「大内宿に甦る茅(かや)屋根の家並」

下郷町 大内 吉村徳男さん

昭和56年に国の重要伝統的建造物群の指定を受け、四季をとおして多くの観光客が訪れる下郷町の大内宿で、伝統文化の保存活動に取り組む「大内結いの会」代表吉村徳男さんを訪ねました。

大内宿は、17世紀の前半、会津藩が参勤交代で江戸に上るために、会津若松から栃木県の今市まで開いた会津西街道の休息や宿場として栄えてきました。今、当時の面影をそっくり残したたたずまいは、年間約70万人の観光客で賑わいます。吉村さんは、こうした文化遺産を後世に残そうと、平成10年に集落の仲間17人と「大内結いの会」を結成、茅屋根の葺き替えや自然環境の保存、食文化の継承などに取り組んでおられます。

大内宿を代表する景観の一つに、昔を忍ばせる茅屋根の家があります。各家々では、これまで手入れのやっかいなことから茅屋根をタン屋根に変えて来ましたが、観光地として脚光を浴びるようになった今日、吉村さん達「結いの会」の呼び掛けもあって、再び茅屋根へと変える動きが活発になってきました。屋根の葺き替えには独特の技術を要しますが、職人の高齢化や後継者不足などで技術の継承が難しくなっています。

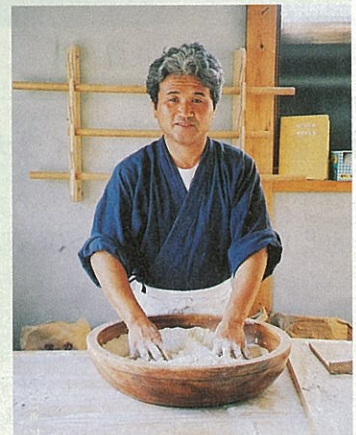
吉村さんは「結いの会」会員17名に呼び掛け、自分達で屋根葺きの技術を身につけ、大内の家々全てを茅屋根に変えようと、師匠に学び自分たちで研究を重ねています。

葺き替えは晴天日の多い4月~5月に行われ、1家屋に職人や助手を含めて20人程の人手を要し、約1週間で作ります。毎年4戸~5戸の葺き替えが行われ、今では44戸の内27戸が茅屋根になりました。

また、吉村さんはソバ打ちの名人でもあります。「こめ屋」と言う屋号の農家レストランを営み、地粉100%の手打ちソバは人気メニューの1つとなっています。

「結いの会」の目的は伝統文化の継承と地域興しです。代表の吉村さんはその先頭に立って頑張っているらしいです。

(農業普及部)



地粉100%の手打ちソバ



「大内結いの会」による茅葺屋根の葺き替え作業

神奈川県藤沢市 星 信博さん（館岩村角生出身）

台風 大雨の度に風景を新たにす河原の構造と風景 そして空き地や田畑と違い大人たちに干渉を受けない自由な空間 幼い頃から僕たちは、常に危険と生物が身近にある極めて魅力的なこの場所が好きだった。多くの人が夏の水遊びの中で子供なりの遊びのルール、長幼の順列、付き合い方、自然の脅威を学習したボリュームは他の遊び以上のものがあったことは間違いないと思う。

一人の少年がどこからか炭焼きの知識を得、河原で見よう見まねにそれを実践し2～3人で始めた遊びが急速に拡大し、季節を通し2年ほどの間に人数にして20人以上が参加する大ブームとなった。勿論焼いた炭が本格的に実用されるまでになったわけではなかったが、何よりも火を使い、ミニチュア版ではあるが大人と同じ作業工程をこなし、その成果は数日の期間を経て仕事の結果として個人個人で差が出る。又、さらに続けて連続的にトライが可能であることが僕たちの緊張を持続させ、工夫の楽しみを増幅させていたと思う。

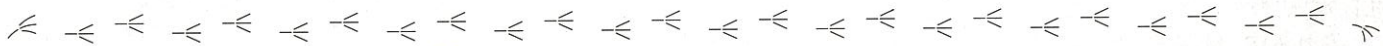
この2年間に及んだ遊びの構成者は通常の遊びのグループの範囲を遙かに超え、複数のグループの連合体であった。中には異端者を演じるものもいたし、連合組織特有の多くのトラブルも発生した。大人たちからの禁止宣告を受け、それを受け入れまでの間この種の遊びで多い自然消滅することもなく続いたのは、最初から最後まで指導的役割を果たした中学生だった少年の資質と能力によるものだった。各種のルールを作り守らせ、夕方の火廻りも1人で果たし続けた。火に対するルールは厳格だった。釜の廻

り3m以内に砂と石以外は置いてならない。3人以下ではいっさいの作業は行わない。釜に火を入れたまま数日間放置するわけだから当然ではあるが、火に関するトラブルはいっさい無かったし管理は適正だった。今思えば作業は全てが危険だった。採木は近くの川の急傾斜の土手で行われていたし、小さな薪に各自家から持ち出した鋸・斧で加工された。釜は重い大きな石を集めて造られた。しかし大きな怪我の発生も無かった。

社会学者がいう小さなムラ社会が2年間確かに河原に存在した。しかし資源の飢渴で敢え無く崩壊した。炭の原料は土手の立木を調達していたが所有者からの危険の名目で禁止を受けた。その後ゲリラ的に活動が試みられたがやがて収束していった。指導者の弟分だった私は最年少の身分で幸運にも黎明期から最後のゲリラ活動まで参加した。

その後この遊びを越えるスケールの遊びを創造することはできなかったが、その後も館岩の河原は、私に治外法権の空間を用意し、その年齢に応じ様々なことを教え、夢を与え続けてくれた。

今はどうだろうか？ 今年はい会いに行こう
館岩の河原へ



 **うつくしま未来博 特派員だより**

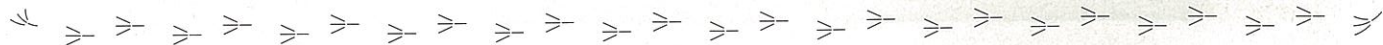
うつくしま未来博が開幕して1ヵ月が過ぎました。うつくしま未来博会場が森の中にあり比較的涼しいとはいえ、直射日光の下ではさすがに暑く、「農林水産館」にあるグリーンパーゴラの天然の日陰は訪れた人々のオアシスとなっています。

さて、会場の混雑状況ですが、お昼の時間帯（11時～14時）はどのパビリオンも混雑していて、じっくりと眺めることが難しくなっています。そこでお勧めなのが、夕方からの時間。夕暮れと共にだんだんと涼しくなり、各パビリオンも空いてきます。また、会場内では、観覧車、パビリオンをはじめ至る所が美しくライトアップされ、幻想的な雰囲気にも満たされてきます。各パビリオンを満喫してからナイトファンタジア（20:00～20:30）を見るというコースが、“アツアツ”のカップルだけでなくみなさんにもお勧めです！

南会津の皆さんは、昼食をとってから出かけるとちょうど良い時間になるのではないのでしょうか。夏休みが終わって学校が始まると、学校の行事等で団体来場者が集中しますので、ぜひこの夏休み時期に未来博に来てみては。
(南会津のうりんニュース未来博特派員)



夕暮れ時は心地よい風が吹き渡ります



「^{かおり}夢の香」と御神酒

「天下御免のどぶろく」で知られる、田島祇園祭で振舞われる御神酒が今年も従来にも増して好評でした。

祭り前日の7月21日、祭りの御神酒開きが御党屋党本で行われました。農林事務所も招かれ、御神酒の出来具合を吟味しました。辛口で香りも良く、飲み易い味に仕上がっていました。祭期間中（7月22日～24日）は、田出宇賀、熊野両神社社務所で参拝客に振舞われ、辛口で上々の味として人気を集めました。

どぶろく作りは酒税法で禁止されていますが、田島祇園祭のどぶろくは特別に税務署の許可を得ており、7月9日に当番の御党屋組と杜氏により、御神酒の仕込みが行われました。

そして、今年の御神酒は「純県産酒」です。御神酒に使われた酒米は県が開発した酒造好適米「夢の香」で、祭の御神酒に使われたのは今回が初めてです。また、酵母はやはり県が開発した「夢酵母」です。「夢の香」は今までの酒米より、出来上がった日本酒の香りと味のバランスが絶妙で日本酒（地酒）の原料として大変優れている特性がありますが、今年の御神酒にも、その特性が表れたものと考えられ

ます。

南会津地方の稲作は、水稻の全作付面積（1,824 ha）のうち、標高400m以上に93%（1,699ha）が作付されています。品種は、ひとめぼれ、初星で61%を占め、コシヒカリは8%足らずで只見町の一部のみ作付されています。高冷地帯のため、秋の訪れが早く、主要品種の安全出穂限界期は8月20日～22日であり、遅延型冷害に遭いやすい地域である等、中山間地域の稲作特有の課題があり、主食用米生産は厳しい状況にあります。

その点、「夢の香」は病気にかかりにくく、倒れにくい、寒さにも強く、品質が良く、当地方等の中山間地域でも栽培できる特性があります。また、地元酒造業者も注目しています。主食用米の栽培適地でない当地方では、酒造好適米の導入による特色ある酒造用米産地育成を稲作振興の1つの柱としています。

近い将来、当地方は酒米産地として「夢の香」が大々的に作付けされるでしょう。「夢の香」、「夢酵母」と続きますが、これは「夢の話」ではありません。

所長 中村 紘夫

◆◆◆ そばマップ掲載希望店募集のお知らせ ◆◆◆

南会津農林事務所では南会津地方のそばの生産振興と消費拡大のため、地元のそば粉を使ったそばが食べられる店、地元産そば粉を取り扱っている店、そば打ち道具を売っている店を紹介したそばマップを作ります。

南会津郡内で上記に該当するそばマップ掲載希望者は、南会津農林事務所地域農林企画室（下記あて先）まで、以下の記載事項を明記し、封書でご応募ください。申し込み締め切りは8月31日です。

なお、そばマップは10月にできあがる予定です。

「そばマップ」掲載申し込み記載事項

- 1 店名・代表者氏名・住所・TEL
- 2 お薦めメニュー・単価
- 3 営業時間・定休日・予約の有無
- 4 道順、駐車場
- 5 特記事項（生そば持ち帰り・宅配・そば打ち体験・粉ひき見学等…）
- 6 店自慢・プロフィール等



あて先 〒967-0004
 福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1
 南会津農林事務所 地域農林企画室
 TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256
 E-mail m-nourin@akina.ne.jp
 ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>
 みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真
 会津田島祇園祭（稚児行列）



古紙配合率50%再生紙を使用しています

この広報紙は古紙配合率50%再生紙とSOY（大豆油）インキを使用しています。

